

死亡事故が発生しました

管内の請負工事において、鉄板が倒れて胸に当たり、作業員の方が死亡するという事故が発生しました。再度作業現場における安全確保、作業手順の確認などを行い、事故防止に十分注意して下さい。

現場状況写真



<事故概要>

- ・施工完了カルバートの開口部を鉄板で閉塞し、土砂にて埋め戻しを行う予定であった。
- ・バックホウで鉄板を吊り上げ、開口部に立て掛けた後、木材によって転倒防止を行った。
- ・バックホウからワイヤーロープを外した後、作業員が鉄板からワイヤーロープを取り外そうとした際に木材が折れ、鉄板が倒れた。
- ・大型土嚢と鉄板の間に作業員が挟まり、被災した。

<事故原因>

- ・事故原因は現在調査中であるが、作業方法等に問題があったと思われる。
- ・鉄板が確実に倒れない方法を行う必要があった。
- ・鉄板の転倒防止として木材を使用するという検討が甘かった。

現場状況写真



<事故防止対策案>

- ・KYK（危険予知活動）を入念に行う。
- ・作業員全員で現場についての認識を共有する。
- ・作業前に、現場における危険について打合せを行う。
- ・危険な作業が生じないように、作業方法を確認し、改善していく。
- ・玉掛け作業についても事前に安全確認を行う。

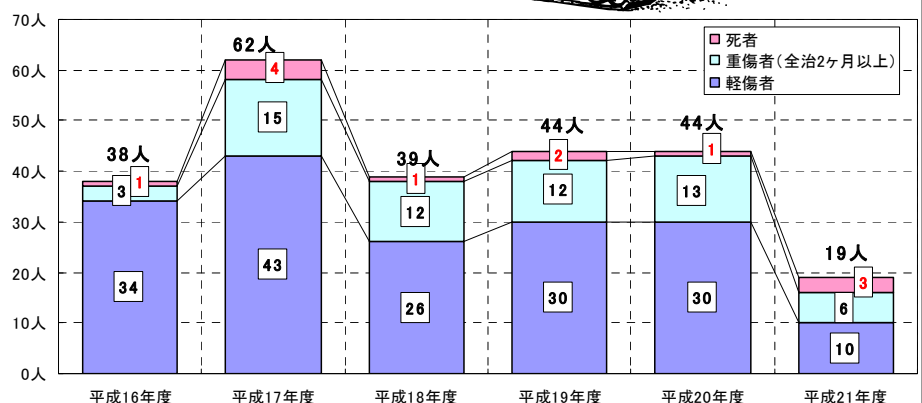


※上半期において、死亡事故で3名の方が亡くなっています。

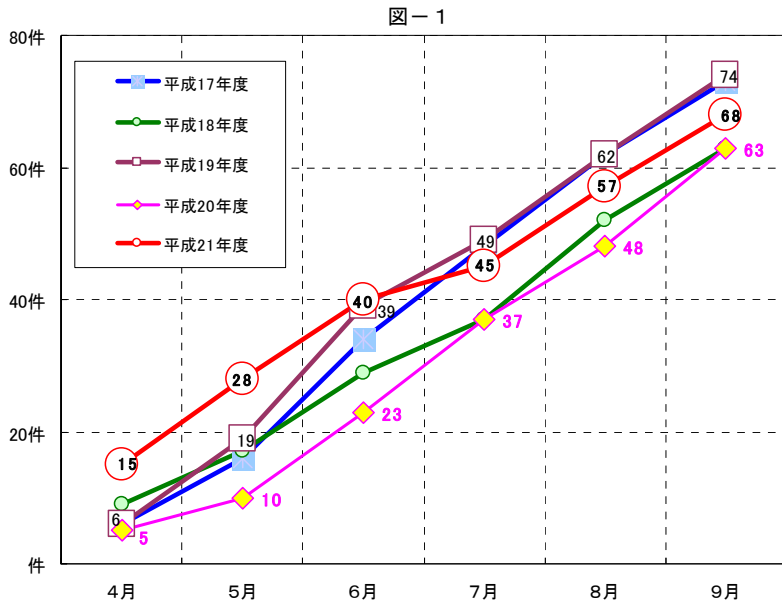
右図（9月30日速報値）参照。

例年を上回る最悪のペースで死亡事故が発生しています。

下半期は事故件数及び被災者数が減少するよう、今一度作業手順の再確認・見直しを行ってください。



平成21年度上半期事故発生状況（速報値）



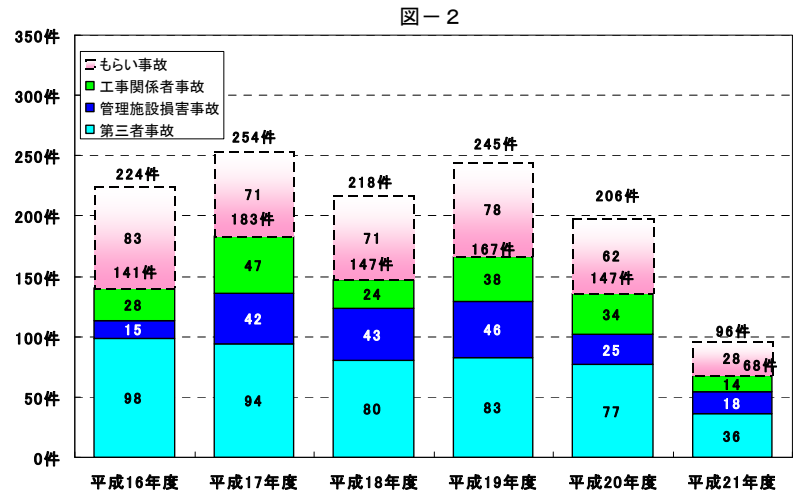
<工事発生件数>

- ・ 図-1のグラフは、平成17年度から平成21年度における上半期の管内事故発生累計件数を示したものです。平成21年度は9月30日現在で**68件**となっています。
- ・ 今年度（平成21年度）は、例年に比べて**年度当初に15件**と事故が多数発生しています。
- ・ 昨年度と比べ、5件増加という状況になっています。
- ・ また累計件数についても、例年と変わらない上昇曲線を示しています。

※数値は9月30日現在速報値（以下同じ）

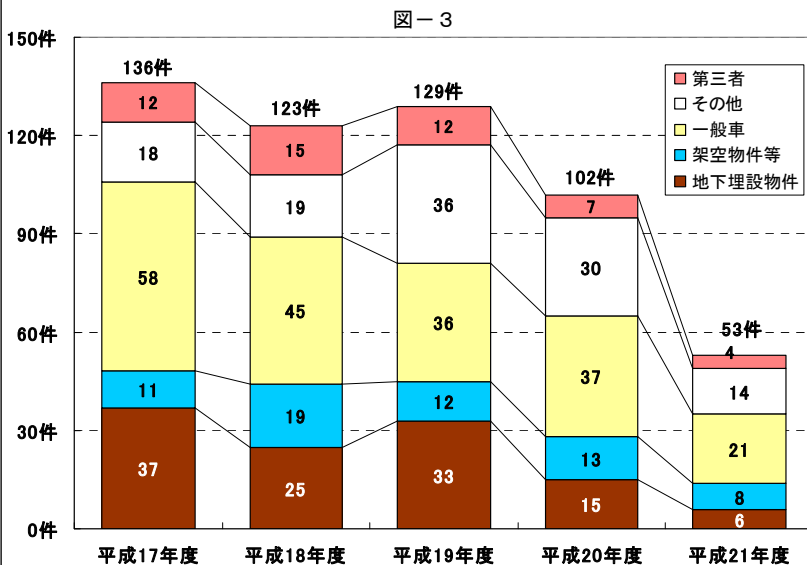
<事故種類別発生件数経年比較>

- ・ 図-2は事故種類発生件数の経年比較を示したものです。
- ・ **管理施設損害事故**は20年度に25件と減少しましたが、今年度は上半期で**18件**発生しています。
- ・ 工事関係者事故及び第三者事故については、ほぼ横ばいで推移しています。
- ・ 総発生件数（もらい事故を含まない）はおよそ150件前後で推移しています。
- ・ また、もらい事故については減少傾向が見られます。



<公衆災害分類別発生件数>

- ・ 図-3は公衆災害発生件数の経年変化を示したものです。
- ・ 9月30日現在で53件発生しており、架空物件及び地下埋設物件に係る事故割合はどちらも1割を超えています。特に、架空物件事故はほぼ横ばいですので、架空線等に対する注意は今後も必要です。
- ・ 地下埋設物件についての事故は減少傾向がみられますので、下半期においても施工の際は、事前の調査、打合せをしっかりと行って下さい。



下半期も災害防止にご尽力お願いします

過去に発生した事故の教訓を生かし、小さなミスも疎かにせず、一層の事故防止に努めて下さい